

令和8年度中学校教育課程研究集会

美術科部会

徳島県立総合教育センター
教職員研修課

協議題

生成 A I を活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

AI時代における教育の羅針盤 ～テクノロジーを「道具」として使いこなすために～

今日から始まる、あなたとAIの新しい対話

Context & Philosophy

歴史的背景と教育の不変の目的

【文字の発明】記憶の「外部化」

↓
人間の脳の空いたリソースを活用

↓
「より深く考えること」への集中

【AIの登場】さらなる知性の「拡張」

↓
介助用ロボットが腕力を増幅させるように

↓
「新たな価値を創造する力」の獲得

「教育は、知識の詰め込みではなく、いかなる激動の時代にあっても自ら価値を創造し、幸福を築いていける人間を育てることである」

—— ジョン・デューイ（約100年前）

知識の暗記価値が下がるAI時代においても、教育の本質（自力で幸せな人生を歩む人間を育てること）は決して変わらない。

問い：AIは知性を奪う「機械」か、可能性を広げる「道具」か？

境界線：「AIを使う際の『主語』が、あなた自身であるかどうか」

【受動的】

条件：主語＝「AI」

プロセス：自らの思考を放棄し、AIの出力にただ身を委ねる。

結果：人間の能力を著しく衰えさせる
【退化を招く機械】

【主体的】

条件：主語＝「自分」

プロセス：自らの目的意識を持ち、意思を持ってAIを使いこなす。

結果：人間の知力を何倍にも引き上げる
【知性を拡張する道具】

The Call to Action

遮断から「導き」へ

- ・マンガ、PC、スマホと同様に、新しい技術を「遠ざける」ことで子供を守ろうとする歴史は繰り返されてきた。
- ・しかし、AIに「遠ざける」という選択肢はすでに存在しない。子供たちは社会の至る所でAIに触れ続ける。
- ・結論：遮断するのではなく、正しい付き合い方を導く。

最大の教材は「大人の背中」

子供がAIとどう向き合うかは、身近な大人（教職員や保護者）の姿によって決まる。

【NG】	得体の知れない脅威として避ける/ ただ素をするために使う
【GOAL】	教育の専門家として、自信を持ってAIを乗りこなす姿

私たちが新たな知性のフロンティアを切り拓くその「大人の背中」こそが、子供たちがAIとの健全な付き合い方を学ぶ最高の教科書となる。

教育現場を支えるAI活用ガイド：授業準備から評価まで

教員がAIを「パートナー」として活用し、業務効率化と生徒の学びの深化を両立する方法



授業準備：教材作成の効率化



指導案と導入 アイデアの作成

単元に合わせた興味を惹く導入案をAIが即座に提案します。



習熟度別の 読解・問題作成

1つの題材から英検各級レベルに合わせた教材を瞬時に書き分けます。



小テスト・クイズ の自動生成

解説付きの4択クイズを作成し、学習アプリへスムーズに連携できます。



授業と評価：学びの深化と分析



対話による 思考の「壁打ち」

AIが反対派や相談相手となり、生徒の論理的思考やアイデアを深めます。



個別学習を支 える「副担任」

生徒が自分のペースで質問でき、教員の手が回らない部分を補完します。



評価基準の作成と 傾向分析

ルーブリック作成や振り返りシートの要約により、次の一手を可視化します。

美術科における生成 A I の活用

活用例Ⅰ（授業準備）

実態に合う授業の内容や展開を考える参考にする。

- ①過去の指導案や指導書をソースとする。
- ②プロンプトに生徒の大まかな実態や授業で使用する技法の特徴、鑑賞する対象の特徴等を条件として入力する。
- ③生成 A I に授業についてのアイデアを提案させ、授業の参考にする。

美術科における生成 A I の活用

活用例 2（授業と評価）

生徒による活動の振り返りを、A I により分析し、
評価に活用する。

- ①生徒が 1 人 1 台端末を使用し、ワークシート等に
活動を振り返っての感想や、鑑賞を通して見いだ
したことなどを記録したものを回収する。
- ②データを P D F に変換する。
- ③Notebook L M による分析を行う。